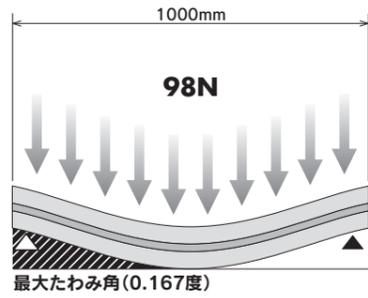


■ 設定条件

下記の「選定手引き表」は、次の条件により算出しています。

- 条件1：両端支持
- 条件2：等分布荷重 98N/m
- 条件3：たわみ角度 約0.167度(1/6度)  
〔使用可能範囲〕

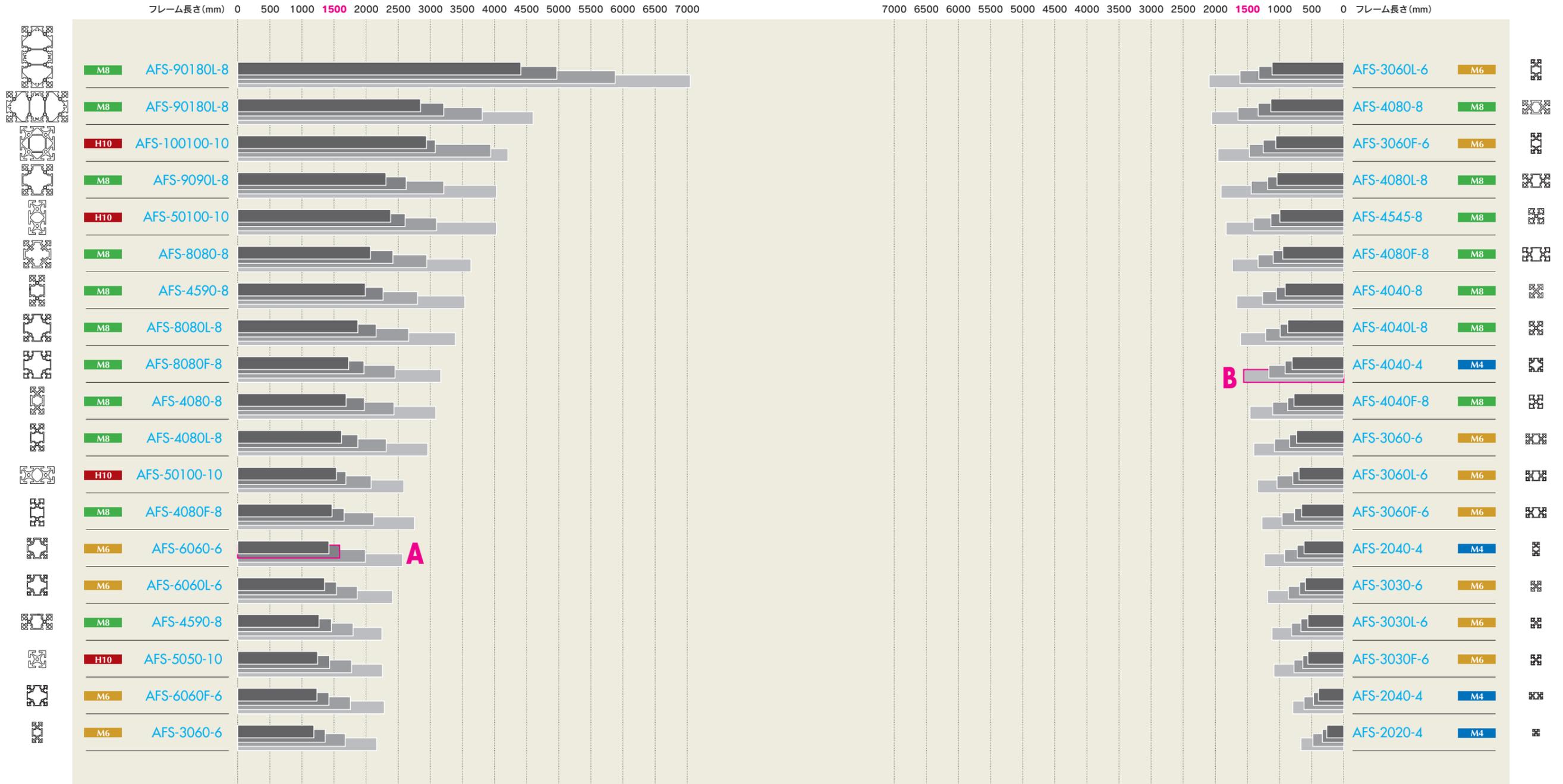
- ※条件2：等分布荷重 98N/mは  
1000mm(1m)当たり98N
  - 800mm → 78.4N
  - 1400mm → 137.2N



※荷重方向は、下表のフレーム形状図に対して上下方向です。長方形の断のフレームでは、縦で使う場合と横で使う場合に大きな差があります。

- 左記条件によるたわみ量は、フレームの全長の約1/1000となります。  
※フレームの全長1500mmのたわみ量 → 約1.5mm
- 左記条件による曲げ応力の安全率は、約5倍となります。  
※5倍以上の荷重がかかるとフレームが変形をおこします

■ 選定手引き表



経済性と十分な強度を両立していただくには、適切なフレームの選定が不可欠です。最適なフレームを選定してください。

■ 下表の見方

グラフ内の、各色の帯の長さ(フレーム長さ)は、4種類の各荷重条件におけるフレームの許容長さを示します。

- 1. 重荷重:735N/mでの許容長さ  
用途例：装置架台等
- 2. 中荷重:490N/mでの許容長さ  
用途例：コンベア架台等
- 3. 軽荷重:245N/mでの許容長さ  
用途例：クリーンユニット等
- 4. 微少荷重:98N/mでの許容長さ  
用途例：アクリル等のカバー

※表示は1000mm(1m)当たりの荷重であり、フレーム全長にかかる荷重ではありません。

■ 選定例

**A** 1500mmのスペンで枠を組み、天井面に質量が65kgの機械を載せる場合。

1m当たりの荷重を計算すると $65 \times 9.8 \div 1.5 = 424.6\text{N}$ となるので、2.中荷重を見ます。左表で1500mmのライン上の2.中荷重を下から見ていくと、最初に2.中荷重と交差するAFS-6060-6から上が安全使用可能範囲となります。

**B** 1500mmのスペンで枠を組み、天井面にアクリル等の樹脂カバー(質量が10kg以下)を載せる場合。

1m当たりの荷重を計算すると $10 \times 9.8 \div 1.5 = 65.3\text{N}$ となるので、4.微少荷重を見ます。左表で1500mmのライン上の4.微少荷重を下から見ていくと、最初に4.微少荷重と交差するAFS-4040-4から上が安全使用可能範囲となります。